



星ノ町 レジェンド

清水要樹は、明治42年(1909年)に三重県で生まれ、昭和5年(1930年)から大阪美術学校で校長の矢野橋村に南画を学ぶため、郡津に移り住みました。南画とは、中国の唐の時代に始まったとされる水墨画のことで、師匠の矢野は、現在も続く日本南画院の設立や、要樹が通った大阪美術学校を設立するほどの大人物です。

要樹はそこで頭角を現します。山水画が得意で、墨の濃淡によって格調高い表現をする画風に定評があり、昭和8年には日本最大の総合美術展覧会である帝展に「朝靄」で入選しました。その後も昭和24年に帝展から名を改めた日展に「霊峰大峰」で入選するなど活躍しました。

要樹は全国各地の山々を歩きながら写生を重ねて絵の技法を追求し、また、師匠が設立した日本南画院の運営にも関わるなど精力的に活動を続けました。平成4年(1992年)には日本南画院第32回展に「大峯雲衣」で内閣総理大臣賞を受賞。日本南画院副会長や現代南画協会副理事といった要職を務めるなど、画家としても業界人としても活躍しました。他にも関西水墨画研究会を主宰し後進の育成に尽力したことや、南画の海外普及にも努めたことが評価され、勲四等瑞宝章、大阪府文化芸術賞、大阪市文化功労章など数々の賞を受けています。

要樹は平成11年に90年の生涯を閉じるまで、郡津に住んでいました。山水画を得意とす



郡津で暮らした南画の大家
しみずようき
清水要樹
1909年—1999年

る要樹にとって、自然豊かな交野は魅力的なところだったのでしょう。要樹の作品には、交野山や源氏の滝など、交野の自然を描いた作品も多く残されています。

要樹の死後、作品や仕事道具の一部は市へ寄贈され、青年の家で定期的に公開されています。興味がありましたら、交野ゆかりの南画の大家の作品をご覧ください。はいかがでしょうか。

[清水要樹氏作品一般公開]
日時 毎月第1水曜日と第3土曜日
10:00~12:00、12:45~16:00
場所 青年の家1階 展示室



「郡津の春」



「交野源氏瀧」